

“STOP! 精神医療センター富谷移転、
2・23 みやぎユーザーズアクション

“声なき声と共に”

Action News

アクションニュース

vol.032

2023.10.27

【毎週金曜日発行】

stop.iten0223@gmail.com

4病院再編構想に
賛成ですか？
反対ですか？

県庁舎の前の選挙看板

宮城県議会議員選挙〈仙台5選挙区〉当選者

4病院再編構想に賛成ですか？反対ですか？...P2

村井知事会見(2023年10月23日)/郡市長会見(2023年10月24日)...P2

ユーザーズアクションの役割と意義...P3

Nothing about us without us!

私たち抜きに私たちのことを決めるな!



facebook

宮城県議会議員選挙＜仙台5選挙区＞当選者4病院再編構想に賛成ですか？反対ですか？

県議会議員選挙当選者24名4病院再編構想について聞く

10月22日(日)宮城県議会議員選挙が行われました。当選者24名へのアンケート結果です。

宮城県議会議員選挙＜仙台5選挙区＞当選者
県が提案する仙台医療圏4病院再編構想に賛成ですか？反対ですか？

(河北新報社アンケートより)

<青葉区(定数7)>

遊佐美由紀(立現⑧)

●回答:反対

村岡 貴子(自新①)

●回答:反対

佐藤 道昭(無新①)

●回答:反対

遠藤 伸幸(公現③)

●回答:どちらかといえば反対

吉川 寛康(無現⑤)

●回答:どちらとも言えない

金田 基(共現②)

●回答:反対

石森 悠士(維新①)

●回答:どちらとも言えない

<宮城野区(定数4)>

佐々木奈津江(立現②)

●回答:反対

大池 康一(公新①)

●回答:どちらかといえば反対

石川光次郎(自現⑥)

●回答:どちらとも言えない

松本 由男(自現②)

●回答:どちらとも言えない

<若林区(定数3)>

渡辺 勝幸(自現③)

●回答:どちらとも言えない

三浦奈名美(立現②)

●回答:反対

高橋 克也(自新①)

●回答:どちらかといえば賛成

<太白区(定数5)>

甲地 恵(立新①)

●回答:反対

船山 由美(共新①)

●回答:反対

横山 昇(公現③)

●回答:どちらかといえば反対

佐々木幸士(自現⑤)

●回答:どちらとも言えない

渡辺 拓(自現②)

●回答:反対

<泉区(定数5)>

小畑 仁子(立元②)

●回答:どちらかといえば反対

遠藤 隼人(自現③)

●回答:どちらかといえば反対

小野寺 健(維新①)

●回答:反対

伊藤 和博(公現⑤)

●回答:どちらかといえば反対

外崎 浩子(自現⑤)

●回答:どちらかといえば反対

<まとめ>

4病院構想に...

賛成 0

どちらかといえば賛成 1

反対 9

どちらかといえば反対 8

どちらとも言えない 6

村井知事、郡仙台市長 選挙結果について言及する

村井知事会見(2023年10月23日)

<https://onl.la/cZrYysd>



郡市長会見(2023年10月24日)

<https://onl.la/Exv4cVr>



■ 患者の日常をどう支えるのか ユーザーズアクションの役割

昨年の夏頃、私の主治医から県立精神医療センターの富谷市への移転について何か反対の意見を文章にしてくれないかという話がありました。しかし、当初私は体調のこともあるので、断っていました。そして、私は医療センターを利用していないこともあり、「今利用している人がやればいいんじゃないのですか。」と主張したのです。それに対して主治医は「言えないでしょ。」と一言だけ発しました。その話はそこで終わったのですが、その後「言えないでしょ」というその言葉に私はとても深い意味合いというものを考えさせられるようになりました。

私は1999年に名取病院（現在の県立精神医療センター）に入院しました。4ヶ月間入院したのですが、なかなか大変な時代で病気の症状以外でも苦しい思いはたくさんありました。その後、デイケアに5年ぐらい通うなどしていたのですが、主治医が開業して、そちらについて行ったこともあり、県立精神医療センターと直接関わることは少なくなりました。

一昨年テレビの報道で3病院の再編から4病院の再編になり、その病院の一つに県立精神医療センターが加わったことを知りました。私は基本的に静観していたのですが、そんな中、昨年夏に主治医から協力してもらえないかという話をいただいたのです。私はいろいろと病気を持つ仲間と関わってきましたが、そこで思ったことは必ずしも皆が自分の思いや感じていることをうまく表現できるわけではないということでした。ですから、外来でもどう主治医に伝えたらよいか困っている人もいることを見ていましたし、病気の人の中にはものごとを考え、判断すること自体、なかなか難しい方がいるということも感じていました。それに、社会的な周りの環境の中で本音と言えない人がたくさんいることも、様々な人の話から知っていました。

このようなことを先ほどの言葉「言えないでしょ」は私に思い出させてくれたのです。ですので、後日、私は逆に主治医にやらせて欲しいと頼みました。私は連日、文章を書いたこともあり、体調が少し崩れもしたのですが、とてもやりがいを感じて行うことができました。

病院の移転計画はとても問題のあるものです。まず、患者の誰にもまったく情報がない中で突然出されたプランです。実際に影響を受ける人に全然話がなされていないのです。その基本的なことすら行われていないのですから。このことに対してわれわれはきちんとおかしいということを行う必要があります。そして何より、移転による現在利用している患者への大きな影響です。精神の病気の安定や回復にはとても日常というものが大切です。この日常がゆらいたり、壊される可能性がとても高いからです。ですから、移転を反対する以上に、この日常をどう支え、どう作り上げるかという視点で私は考えています。私は決して移転反対運動だけでわれわれの活動が終わってしまっただけだと思っと思っていますし、活動を続けるべきだと考えています。そのためにわたしはできる限り動いていきたいと思っしていますし、そうする必要性を感じています。

ユーザーズアクションが存在する役割と意義はそこにあるのであり、そうあるべきなのです。

みやぎユーザーズアクション実行委員
原田 幸一